

# 道民割引の旅

旭川小旅行

佐川 昭

今日は6月中旬の金曜日だ！久しぶりに休養の時間として午後から休みをもらった。一旦自宅へ帰り準備を整えて、妻と4時に自家用車でしゅっぱーつ！こんな言い方をしたくなるほどワクワクした気持ちだ！向かう先は旭川のAホテルで2泊の予定だ。

高齢運転者による事故のニュースが絶えない。自分もその1人にならないよう気をつけた運転で道央道を走行。清々しい景色を抜け、目的のホテルへ無事到着。金曜日の夕方のせいかロビーや受付に多くの観光客が押し寄せられている。大きなバスからも沢山の人が降りてくる。コロナ感染症が5類になったためか人の動きは盛んだ。隣のフロントではバスガイドさんが客の他に自分たちの部屋も確保されているかの問い合わせが、どうもさされていないようだった。これはやばい話だ。

そんなことより私たちの一番の心配は自分たちのことで、受付で道民割引のクーポンを手に入れ使えるかどうかだ。予定では金曜宿泊分で2000円、土曜分が1000円となり、2人で6000円頂けるはずだ。出発の何週間も前から書類やらスマホやらで、当院スタッフの力も借り何とか登録を済ませたはずだった。なのにフロントでは「最終登録されていません」。ががーん！ショックだ！コピーしてきた書類とともに私のスマホをそっくりホテルマンに渡し、ぐちぐちといじって奮闘してもらった。20分はかかった。

待っている周りの目が気になった（ごめんなさい！）。

やっとクーポンが使える状態になった！予定通りの6000円だ。さらにホテル代も1万円引きになっている。大変に嬉しい話だ。でももうコロナが落ち着いてきているので今回限りでぎりぎりの滑り込みだ。我々はこの幸運はあまり経験したことがない。せっかくのお上の施しだ。ありがたく受け世の中の経済活性化の一助になろうと、心に決めた。

でも何でクーポンをもらうのにこんなに苦労をしなければならぬのか。ペテランの年たちが手掛けても苦戦しているのだから、年寄りには何が何だか分からない。どこかおかしと強く感じた。

今回の旅は妻の熱望で、この3年間海外の学会を含めどこへも行くことができなかったため、せめて近場の旅行でもと、旭川美術館の企画展を見つけてくれ計画が始まった。金曜午後には休みをもらえたら、当院は土日休みなので大きな穴はあかない。

しかしこの旅行計画が決まってから、何とその土曜日に当番病院が当たってしまった。院長はじめ（私は理事長）他のスタッフに願ひするしかない。幸い快く引き受けてくれた上での貴重な旅行の時間だ。

さて旭川で何をしたいか？北海道立旭川美術館で「魅惑の西洋近代絵画」展を開催している。それが1つと、もう1つは、まだ少し早いけど初夏の旭岳散策も楽しみたい（もちろんまだ姿見の池付近のみ）と思っている。

翌日の土曜日はホテルを朝早く出発し、旭岳ロープウェイ乗り場へ向かった。10時過ぎに到着し防寒対策をして10時30分発の便に乗った。客は数人でまばら、日本人は我々の他に2人くらいで、大きな声の英語が響いている。眼下に雪の残った景色を見ながら姿見の駅



写真1

へ到着。ところがその日はガスがかかっている。普段ならくつきり見えるはずの旭岳の姿はない。数m先も見えないくらいだ。しかも足元はまだ雪渓が広がっている。姿見の池への左回りのルートは無理と諦め右回りへと進んだ。ところどころ小さな雪渓はあったが、何とか姿見の池の前の丘にはたどり着いた。たつた500mを1時間かけ、まだ出てきたばかりの数少ない高山植物を楽しみながらの散策だった。

最初に目についたのはシヨウジョウバカマ（写真1）だ。花の色がピンクより紫が強いのは、この土地が酸性だからとのこと。

他にもキバナシヤクナゲは数多く見られ、エゾゴザクラ、エゾノツガザクラやメアカンキンバイなど、登山道脇の雪渓の淵に7種類くらいの花を見つけ、満足してガスの多い山を後にした。

7月中旬になるともう雪は消え夏山の美しい盛りになっていることだろう。しかしその頃には登山客や観光客でロープウェイ乗車に1時間も2時間も待つかも知れない。さらに駐車場も満杯で止める場所がないかも知れないと、希望を叶えられない不安が優先した。この時期だからこそすいすいと上に行き帰ってくるべきだったのだ。それだけでも幸せ



写真2

だと思わなければ。近頃はこんな風に考えることが多くなった。感謝、感謝だ！自分は恵まれていると。

さて翌日は日曜日、最終日だ。まずは美術館を目指した。ホテル近くの常磐公園の一角にある広々としたワンフロアの建物で、立地はとても良い。観客はまばらなもの途切れることがなく、密かに人気があるのだとなぜか嬉しい気持ちになった。「魅惑の西洋近代絵画」展の一番人気はルノワールの「泉のそばの少女」だ。チケットや大きな垂れ幕にもなっている（写真2）。今回は笠間日動美術館のコレクションでドガ、セザンヌ、モネ、マチス、ピカソ、シャガールなど、それぞれ数は多くないが巨匠たちの名画をじっくりと堪能した。

外へ出ると青空だ。公園の木々の緑と花壇のブルーサルビアなど色とりどりの花々が可愛らしい。都市の中の大きな公園で、札幌の中島公園よりも広く感じた。休日の昼という



写真3

のに人はほとんどいない。我々他都市の人間だけではもつたいたい、もつと市民が楽しんだらいいのと思ったが、余計なことかも知れない。

池の周りにはゆらゆら揺れる柳の枝、そして水面には真っ白の睡蓮が凛と咲いている（写真3）。実に美しい。何と見事な花なのか。高山植物とはまた違った趣を感じた。

午後は旭川駅隣接の大きく立派なショッピングモールで食事後、駅南口の北彩都ガーデンを楽しんで無事帰宅。2泊3日の短い旅とはいえ、旭川周辺を十分に楽しんできた。楽しんだ後には、これからいろいろ考えなければならぬことが沢山あるような気がしてきた。月曜からお互いにまた元の日常生活が始まる……。とにかく良い思い出は残しておきたい。残り人生を思い出深く豊かなものにするために。（佐川昭リウマチクリニック）